

「盲導犬と一緒に活動ができたなら 東京2020大会を振り返り」

2020年10月17日 シティキャストへの感謝状贈呈式 11:00~12:00

東京都庁会議室

2020年7月11日 シティキャスト説明会、ユニフォーム受け取り 都民の城



↑活動の様子の写真展示

↑式典会場

↑記念撮影

1、このユニフォームをまた着ることができるように

パラリンピック閉会から1か月余り。シティキャストへの感謝状贈呈式はリーダーを対象にこの日午前と午後に分かれて行われ午前の部に参加してきました。都の担当責任者の方からシティキャストの代表の方に感謝状が授与され、都に対しても感謝状を贈りました。また海外メディアからの「大雨の中でも親切に笑顔で接してくれた」「空港での見送りに感動した」といった賞賛の画像が紹介され、3名のパネラーの方が「2020大会に向けて準備したこと」「今後どのように関わっていききたいか」などのディスカッションが行われました。

最後に都の担当者が「今回の体験を活かして、これからもボランティアを続けて欲しい。そしてこのユニフォームを再び着て活動ができれば」と東京ボランティアレガシーネットワークの紹介があり、1時間の贈呈式はあっという間に閉会いたしました。

オリンピックのビデオメッセージがあるなどもっと賑やかなイベントかと思いましたが、思ったよりもあっけなく質素でした。無観客でシティキャストの活動がなくなるかもしれないことを思うと、緊急事態宣言明け直後でこのような式典が行われただけでも御の字と言えるかもしれません。

2、「悩」

話はさかのぼり、ちょうど3か月前にシティキャストの研修とユニフォーム配布が行なわれました。その頃は無観客での開催決定直後でシティキャストの活動があるかどうかも決まっておらず、感染者も急増して、中止したほうがよいという世論が多い中で、どことなく重い雰囲気の中での研修でした。

研修の中で「2020大会を漢字一文字で表すとしたら」というのがあり、私は「悩」と書きました。(活動場所に内定していた)ライブサイト会場での活動がなくなり、やることのないのにシティキャストが配置された場合どうなるのか? (リーダーとして)不安なく活動してもらうためにはどうしたらよいのか? と人並みに悩んでいたからです。

3、研修中に気持ちよさそう眠る盲導犬

向いに座っていたのは目が不自由な方で、椅子の下に盲導犬が気持ちよさそうに眠っていました。盲導犬というと大型犬のイメージでしっかり者のイメージがありますが、その盲導犬は小型犬と中型犬のおなじくらいの大きさで、ぱっと見た感じペットショップで売られている愛玩犬のようでした。私も愛犬家の一人で小型犬のチワワを飼っています。その盲導犬は研修が始まるとリラックスして、うとうとと眠り始めたに違いありません。その姿が可愛らしく、コロナ禍の不安を和らげてくれました。

4、盲導犬と一緒に活動する時代に

障害がある方への接し方は車椅子の動かし方など、研修を受けて何となくイメージが湧きましたが、障害がある方と活動する場合どうしたらよいのかについては全く考えていませんでした。2020大会が通常通り開催されていたら、この盲導犬が同伴している方と一緒に活動していたかもしれません。リーダーとしてどのように接したのでしょうか? 互いに認め合い、盲導犬も一緒に活動ができたらどんなに楽しかったのでしょうか? いや、これからは障害のある方と一緒にボランティア活動をする時代はすでに来ているのではないかと思いました。